

ふと立ち止まれる“テンポ”にするために ～シェアリング社会実現への挑戦～

岡崎市の中心市街地 乙川リバーフロントエリア

過去800年にも及ぶ長いまちの歴史は、時代に合わせて役割を変化させる柔軟性に支えられてきた。現在は、これから100年の新たなまちの役割を担う準備を進めている。

直近では公共空間整備を100億円規模で進めてきており、併せて自動車依存度の高い地方都市としては、「賑わい増加と渋滞緩和の両立」に向け、「ふと立ち止まれるテンポのまち」を目指してチャレンジしてきた。

「賑わい増加」と「渋滞緩和」の両立

↑
ふと立ち止まれるテンポのまち

シェアリング社会実現への挑戦

I 公共空間（景色）のシェアリング

公民で公共空間を積極活用。R4活用回数延557回で大きな集客効果を創出



II まちづくりマインドのシェアリング

自分事でまちづくりを担うマインドの伝播。4年連続エリア内出店数10件以上



III モビリティのシェアリング

独立採算達成のサイクルシェア。次世代パーソナルモビリティの休日限定実装などで、エリア内移動を支援



IV エネルギーのシェアリング

脱炭素エネルギーの地産地消（シェアリング）にむけた実装準備・実証中。路面太陽光パネル等でまちなか発電ポテンシャルの低さを補完。公用車EVのナイトマーケット貸出で脱炭素イベント支援



公民連携で下支え

地域・公民で、主体的にまちづくりに関わるマインドを醸成・伝播し自立性を確保

データ活用で下支え

サイクルシェア事業や人流波及でデータを活用した改善サイクルの第1歩を踏み出した。

都市モニタリングで下支え

将来的に、都市密度モニタリングにより、健全で持続可能な発展に向けた挑戦をする。